

「2024年度バルセロナ大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学総合人間学部1年 小林 ひなた

今回バルセロナ大学スプリングプログラムに参加した中で、多くの人と交流し自分自身の中で新たな考え方を得たとともに、将来について再考するきっかけを得たように感じている。以下に特に印象に残っている項目について述べる。

まず包括的な学習成果について、スペイン語・カタルーニャ語に加え、英語能力が要求され、外国語運用能力が想像以上に鍛えられた。一年間学んできたスペイン語の能力を実際に試す機会を得られたことは、今後のスペイン語学習のモチベーション維持に大きな影響を与えたと感じている。また、スペイン出身の学生だけでなく、様々な国の留学生と交流する中で様々な形での学習の形を知り、自分の将来におけるキャリア形成における視野が広がった。

次に海外での経験について、今回のプログラムでは大学側が提示したスケジュールは平均して半日程度の拘束時間で、それ以外は自由に行動することができた。そのため学生のみで街を散策する機会が多く、観光はもちろん、地元のスーパーに行ったりショッピングをしたりと、海外で自分の力でコミュニケーションをとりながら生活する術が身についた。

またプログラム内容について、用意された語学研修プログラムは充実していて、特にカタルーニャ語の授業はとても面白く意欲的に取り組むことができた。その結果、簡単な文章なら自力で作ることも可能なレベルまで至ることができた。私自身は日本で一年スペイン語を勉強した状態で現地に向かったため腕試しのような気分でスペイン語の授業を受けていたのだが、ともに授業を受けた日本人学生の積極的な受講姿勢と教授側の前向きな態度のおかげで拙いながらもスペイン語を用いて発言する機会を多く得ることができ、存分にスペイン語能力を試し養うことができた。また、プレゼンテーションの準備や共同セミナー等で現地の学生と交流する機会があったが、その中で英語を用いて意見交換をする機会が多く図らずも英語能力が養われたと同時に、スペイン以外にルーツを持つ学生が多くプログラムに参加していたことによって世界各国の学生たちと情報交換ができたことは私にとってとても良かったと感じている。プレゼンテーションについては短い発表時間ではあったものの、現地学生と協力ながらできる限りのことはできたと思っている。発表をブラッシュアップする中でも現地学生と日本人学生との間で交流が生まれ、連絡先を交換するほどにまで仲良くなることができ充実した時間だった。

最後に進路への影響について、私は海外留学に対して、時間的・金銭的制約によって少し後ろ向きであった。しかしバルセロナ大学の留学生たちと情報交換をする中でいろいろな形態の留学を知り、海外留学に対する視野が広がったとともに前向きに検討したいと感じるようになった。留学の目的は単なる言語能力の獲得にとどまらず、他者への寛容さを得ることや自分自身の価値観を更新することなど、豊かに生きていくうえで重要な事柄を学ぶことだということを改めて実感した。奨学金をもらいながらの留学や、一学期間だけの短期的な交換留学の形態なども知ることができ、自分の将来設計に合わせた留学のシステムを探すことで将来のキャリア形成ひいては自分の価値観形成に多大な影響を及ぼすであろう海外留学という経験を無理なく得られる道が見えた。

以上のように、2週間と短い期間ではあったが感じたことは多くあり、それによって私自身の学生生活さらには将来設計において再考する機会を得たように思う。スペイン語の学習だけでなく、海外学生との交流や貴重な海外経験を得られたという点において参加した価値があったと感じている。